

## 競技審判上の注意事項

1. 競技は2022年版（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則によって行います。但しネットの高さは男子2.35m、女子2.15mとします。また、競技はすべて3セットマッチでおこないます。
2. 競技者追加・チーム役員の変更は、監督会議終了後30分以内に監督会議会場にて所定の用紙で届けることとします。プログラムの誤字も同様に届けます。
3. プログラムに設定された時刻は、試合開始の時刻です。
4. 前の競技終了後直ちに公式プロトコルに入りますので、該当チームは待機しててください。プロトコル終了時にチームが試合をできない場合は棄権となり負けになります。
5. 棄権チームがあった場合には競技を繰り上げておこないます。また、進行上、コートの変更がある場合もあります。同一チームの競技が連続する場合には、20分以内の休憩を設定します。
6. 監督・コーチ・マネージャーは、監督章・コーチ章・マネージャー章を左胸部につけます。監督の服装については清楚に心がけ、コーチ・マネージャーについては選手と同一か、監督に準じてください。
7. ベンチに入れるのは、監督・コーチ・マネージャー・選手13～14名で必ずリベロ2名とする  
ただし、選手が12名以内の場合、リベロは0～2名以内とする。  
ベンチには危険なものの持ち込みを禁止します。（ガラスの瓶など）
8. 競技者のジャージ・パンツとソックスはチームで統一され、清潔で同一色のもので、競技規則に定められた選手番号（1～18の一連の数字が望ましい）をつけます。なお、ユニフォームは、明らかに色の異なった2着をできる限り用意してください。選手の靴についてもできる限り色を統一してください。
9. ユニフォームには必ず学校名を表記し、選手の個人名が入っていないものを着用してください。パワーパンツは禁止します。
10. トスは、前の競技終了後、審判員の立ち会いのもとに、チームキャプテンが記録席前で行います。
11. トス終了後、直ちに公式練習に入ります。公式練習終了後、選手全員エンドラインに並び、挨拶・握手してスターティングメンバーがコートに残り、試合開始になります。
12. 各セット開始時には、選手はエンドラインに整列せず、ベンチより直接コートに入ります。セット終了後は、6人のプレーヤーは一度エンドラインに整列し、主審の合図に従ってチェンジコートし、支柱を越えたら直接自分のベンチに戻ります。
13. 3セット目の13点に達したとき、コート上のプレーヤーはエンドラインに整列してから、主審の合図に従って向かって右側の支柱の外側を通り、コートを交換します。
14. 公式練習は、最初のサーブ権を得たチームから3分間ずつおこないます。なお、合同で6分間の練習をおこなうときは主審に連絡してください。公式練習には、エントリーされた者以外は参加できません。
15. 競技中は常にフェアプレーに徹して下さい。軽度の不法な行為にはチームに警告を与えますが、不法な行為・侮辱的な行為・暴力的な行為をした場合は、その程度により『反則』・『退場』・『失格』の罰則が科せられることがあります。
16. 競技中のタイムアウトは、監督・ゲームキャプテンのみが公式のハンドシグナルを示すことによって要求することができます。競技者交代の要求をおこなうときは、監督・ゲームキャプテンのハンドシグナルを示さずに、交代する競技者はすみやかにサブスティテューションゾーンで待機します。また、コート内の競技者も手をあげ、番号を記録員に明示し、副審の指示をもって交代します。
17. 競技中は、審判員の許可なく勝手にベンチを離れてはいけません。ウォームアップのためにベンチを離れるときは、ウォームアップエリアで、ボールを使用した練習はできません。
18. 競技は1つのボールで行います。ボールがデッドになったら、すみやかに相手コートに転がして返球します。また、コート外のボールは競技者が取りに行きます。
19. 競技中に汗などで床がぬれたときは、コート上の競技者などがすみやかにタオルで拭きます。このとき、競技者は集まって話をしたりしてはいけません。床ふき用タオルはチームでご用意下さい。タイムアウトのときやセット間にはチームでモップをかけてください。
20. 監督制限ラインを設けます。監督は試合を妨げないまたは遅延させない限り、アタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの自チームベンチ前のフリーゾーン内で立ちながらも歩きながらも指示を出すことができます。